

《 第 36 回茨城県診療放射線技師学術大会 》

開催日時：H30. 3. 4

開催場所：茨城県立医療大学 講義棟 大講義室・中講義室他

参加者：学術大会 174 名

(会員 158 名, 非会員 5 名, 学生 11 名)

市民公開講座 100 名

内容：

大会メインテーマ『医療画像の 3 次元可視化を目指して～放射線医療によるチャレンジ～』をもとに学術講演・読影補助に関する講演・市民公開講座・一般研究発表・機器展示・ランチョンセミナー等を企画・開催しました。

午前の学術講演では、富士フイルム（株）R&D 統括本部メディカルシステム開発センターの榎本潤先生に「3D 医用画像解析の歩みと今後」というタイトルで御講演いただきました。

午後の読影補助に関する講演では、「医療現場における診療放射線技師の新たな役割～読影補助についての考え方～」というテーマのもとに昭和大学大学院保健医療科学研究科の加藤京一先生に「8 年の軌跡からみた読影補助の現状と将来展望」というタイトルで、読影補助の現状及び今後の展開についてお話しいただき、日立総合病院の岡先生および聖路加国際病院の宇内先生にそれぞれ胸部編、腹部編として読影補助の実践例についてお話しいただきました。

会員研究発表は前年より 4 セッションで計 22 演題を発表いただきました。日常業務に関連する研究発表や症例報告等、の発表をしていただき、意見交換の場となりました。ランチョンセミナーは、富茨城県立こども病院超音波診断室の浅井宣美先生より「小児腹部超音波の現状と課題～超音波検査士は小児診療とどのようにかかわるべきか?～」というタイトルで講演をしていただきました。

また同会場にて開催した市民公開講座では茨城県立医療大学医科学センター教授の六崎裕高先生に「バスケットボール・車いすバスケットボールにおける傷害と治療」というタイトルにて特に膝や四肢に関するスポーツでのけがと治療について一般市民を対象とした講演をしていただきました。

学術大会はじめ市民公開講座では多くの参加者にご参加いただき感謝申し上げます。

(報告者：川村 拓)